



No.12

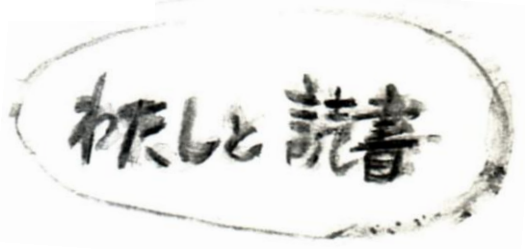
学校図書館 司書だより 2011年9月



図書館クイズ

国語の教科書には「本は友達」のなかで、たくさんの本が紹介されています。1年から6年まで合わせると何冊でしょうか？

①60冊 ②126冊 ③386冊



本の香り

美濃加茂市教育長

日比野 安平

期待と戸惑いの中で、新年度が始まったと思ったら、もう夏休みが終わった。この一学期間に、子ども達に新しい多くの友達ができただろうか。

豊かな出会いが人生を大きく左右することも多い。小・中・高校と進むにつれて広範囲から生徒が集まり、友達の輪が広がる。新しい環境で、育った背景も価値観も違う人達と出会うことになる。新しい出会いを重ねることによって、人は大きく成長する。

「可愛い子には旅をさせよ」ともいう。待望の夏休みも終わり、子ども達には、また新たな出会いがあったことだろう。人との出会いだけではない。書物との出会いもある。読書はこのようであればならない、というような堅苦しいものではない。

この四月に、図書館で小学生のせいせん図書一覧を見せていただいた。そこには五十年ほど前に私が読んだ本の題名も見つけることができた。驚くと同時に、優れた本は時代を超えた魅力を持っているものだと思った。

私の読書習慣は、小学生のころ、U一家との交流で生まれたように思っている。母親同士の仲が良く、父親が学校の教師だったU家を頻繁



に訪れ、とりわけ夏休みには足繁く通い、多量の本を貸していただいた記憶がある。今も「読書」の話になると、U家の人々を懐かしく思い出し、感謝の念で一杯になる。

ある夏休み、一日一冊の読書を自分に課した。ところが、面白い大冊に出会うと、一冊読むのに四、五日かかってしまう。目標達成のために岩波文庫の星一つを買い、一日に二、三冊読んで帳尻を合わせたこともあった。おおよそ意味のある読書とは思えないし、ひんしゆくさえ買いかねない読書の年であった。

ある専門分野の八百ページの書物を四十日間で読むと決めた夏休みもあった。一日二十ページ読み、四十日間で読了というものだった。午前中のある時間をあて、毎日、足を向こうの椅子に投げだし、その膝の上に辞書を、時には二、三冊置きながらの、行儀の悪い読書であった。

夏休みも終盤になり、八百ページの目標も達成できそうになったある朝、足の関節が曲がらなくなり、あまりの痛さで立っていられなくなりました。長期間、膝に関節の曲がる方向と逆の応力がかかり、炎症を起こして曲がらなくなりました。戻ったのだ。

ある時、書庫を増築することにした。仕事から帰って、毎日少しずつ書物を「離れ」へ移動していた。当然新しく造る書庫の床は、書物の重さに耐えられるように、大工さんに補強を頼んだことまでは予定通りだった。

ある休日の朝、いつものように本を離れへ運んでいたら、床が抜け落ちていた。床下にもぐってみると、ひとかかえもありそうな根太が、

真ん中で折れていた。毎日少しずつ運び、床には気をつけていたつもりが限界に来ていたのだ。大工さんも、話には聞いていたが、実際に折れた根太を見たのは初めてだということ、サービスで修理していただいた。

注文していた新刊が入り、寝転がって読んで、疲れて顔に本がかぶさった時、ふと感じる本の香りなど、本には尽きせぬ思い出が多い。読書習慣は様々なきっかけで身につく。その楽しみを多くの子ども達に知ってほしいと願っている。

豊かな読書体験は、豊かな人生をもたらすように思うからだ。

今年度から教育長になられた日比野先生は、専門は化学ですが、俳人でもあり、文学への造詣も深い方です。前サイエンスワールド館長。

* ちよつとお得情報

市立図書館では、「ノーテレビデー」をつくることを呼びかけています。テレビを消すと、たくさん本が読めて、家族の会話もふえますよ。市立図書館の本が10冊借りられるようになったのはご存知ですか？(3月末までですが…)秋の長夜にたっぷり本にふれてください。

東図書館 坂本



読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

小学校図書 の修理の活動

中央、東図書館に登録しているボランティアさんは大勢いらつしやいます。この人たちのうちで定期的に会って活動を計画的に行うグループが「e顔クラブ（えがおくらぶ）」です。

図書館ボランティアの活動の内容は、返却本の配架、破損本の修理、第5土曜日の本の読み聞かせ、ケアハウスへの本の宅配サービスのお手伝い、毎月の小学校図書の修理、一月のカルタ会、六月の図書館整理、八月の図書館まつり、十一月の古本リサイクルへの参加です。

ここに三年前から、市立図書館以上に傷み具合のばげしい学校図書館の本を目にしてから、な



んとかしてあげたいとはじめた毎月の小学校図書の修理は、学校の図書室で行っている作業なので、元気な子どもさんに会えたりすることも多く、私たち年配

者にはとても嬉しい体験です。

修理すべき本はあらかじめ図書館司書さんに出しておいていただいてあります。時間内にそれらの本をすべて修理

できなかつたときは、中央図書館に持ち帰って、後日またボランティアさんが集まって修理して学校にお返ししています。学校図書の修理依頼がこれからもあれば、学校訪問を続けたいものだと私たちは思っています。（水谷道子）



e顔クラブ

e顔クラブのみなさんは、

一か月に一度、市内の各小学校の図書館をまわって、本の修理をしてくださっています。その数は、昨年一年間でなんと、923冊！

ぼろぼろの本がきれいに生まれかわって、また読めるようになりました。皆さんに感謝し、本を大切にできるといいですね。

図書館クイズの答え ③、386冊です。

各学校の図書館にほとんどの本がそろっています。6年間で全部読んでみましょう。

えほん

「こすずめのぼうけん」

ルース・エインワース作
福音館書店 840円



お母さんから飛びかたを教わって、はじめて巣からとびたつたこすずめは、へいをこえどんどん飛んで行きました。はじめはおもしろかったけれどそのうちに疲れてしまい、いろいろな巣をみつめて休ませてくれるよう頼みます。けれどどの鳥も仲間ではないこすずめを入れてはくれません。もう飛べなくなってしまうたこすずめを見つけてくれたのは……

物語

「カモメがくれた三かくの海」

山下明生作
日本標準 1365円

ブランコが苦手なワタル。こっそりと練習にきた寒い朝のこと。釣り針が引っかかったカモメに出会い助けます。そこで、ワタルはカモメの飛び立った草むらの上で、すべすべした海色の三角のガラスを見つけます。ワタルには、それがまほうの宝石のように思われました。どんなまほうがワタルに起こるのかは、読んでみてからのお楽しみ……。



目の前に海色が広がるファンタジーです。ほか海の童話二作品。

小説

「夏の庭」

湯本香樹実作
徳間書店 1470円



「死んだ人が見たい」という思いにとりつかれた十二歳の少年三人は、もうすぐ死ぬかもしれない近所の一人暮らしの老人を見張ることにしました。でも、見張られていることに気付いた老人はだんだん元気になっていき、少年たちとの交流がはじまります。そして老人と一緒にすごしたひと夏の経験は、少年たちを大きく成長させてくれます。

この本 読んでみて!

大人むけ

「読書のチカラ」

齋藤 孝著
大和書房 1365円

情報を得るための読書、楽しむための読書……。「読書」に対する思いは人それぞれですが、あなたはどんなときに読書を読みますか？実は「不安で孤独なときこそ、本を読む絶好のチャンス」だそうです。読書と生きる力はどこでつながっているのかわかりやすく紹介されています。

